

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ブロッサム	代表者	藤原美里	法人・事業所の特徴	「地域の人気者」をモットーに、地域に密着した事業所を目指しつつ利用者様、その御家族だけにとどまらず、職員やその地域の皆様にも幸せになってもらう事を心掛けています。
事業所名	小規模多機能センターきらり妹尾	管理者	藤原美里		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	2人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・特定の職員に偏らせずまんべんなく職員が地域の会議等に参加できるようにする。・参加した職員は事業所内で情報の共有ができるようにする	地域の行事はなかったが職員同士の情報共有は行えた	各ご利用者の目標を理解し書式を検討し、全員で情報の共有が出来た	情報共有に勤める。タブレット導入の検討
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所の行事だけでなく地域の集まり等の場所の提供。 ・家族や地域の方が入りやすいように、こちらから積極的に行事等に参加して顔なじみになり、より入りやすいような関係作りを構築する。 ・ボランティアの方の受け入れを、より多くする。	外部の方の出入りを禁止しているが玄関のドアをオープンにしたり、閉鎖的にならないよう配慮した。	コロナ対策を引き続き行っていく	引き続き感染症対策を行いながらご利用者にあった環境に配慮する
C. 事業所と地域のかかわり	地域の民生委員の方と連携しながら、イベントの情報を収集し事業所として積極的に参加する。地域の方と連携して「困り事相談会」のイベントを計画し実行する	行事等はすべて中止になり参加はなかったが、地域に電解水無料配布は継続した その際に地域の事について話伺う機会があった	定期的に参加させて頂いた地域の行事にも出向くことがなくなった	ホームページ等でサービス内容や活動状況を知ってもらう コロナ禍でのあらたな関り方法を検討する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の民生委員や町内会長等と連携・情報共有しながら地域の心配な方と関われるような体制を整える	ご利用者と地域を散歩することにより地域の方とあいさつをしたり困り事の相談にも繋がった	メールや電話で地域の方と話す機会があったが出向くことはなかった	地域を散歩したりゴミ拾いの実施を継続する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の時に事業所の報告等にとどまらず地域の心配の方の事例検討が出来る時間を設けて話し合いの機会を持つ。・今後も地域の方と連携しながら事業所として取り組んでいく（例ー清掃活動）</p>	<p>運営推進会議中止に伴い書面での通知にとどまり意見はもらえなかった</p>	<p>意見を伺うことがほぼなかった</p>	<p>運営推進会議が開催でき意見交換を行う</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・地域のハザードマップを活用して事業所独自の防災計画を職員・利用者だけでなく外部の人にも分かってもらえるように取り組む。</p>	<p>火災を想定し訓練を行った</p>	<p>特に意見無し</p>	<p>すべての災害についての防災計画の立案 AED 設置の検討 救急法の学習を行う</p>